

(別記)

2020年度 和寒町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、名寄盆地の最南端に位置し、稲作中心型、水稲・畑作・露地野菜を中心とした土地利用型農業、メロン、トマト、花卉など施設を導入した集約型農業など多様な経営形態となっている。また、水稲に変わる作物として、南瓜の作付けが拡大され、日本一の作付面積を背景にブランド化が進められてきた一方で、農業者の高齢化、後継者不足から農家戸数が減少し、1戸当たりの経営面積が増加していることを背景に、機械化・省力化が可能な作物の作付けが拡大し、連作や短期輪作が増加傾向にある。そのため、心土破碎等の湿害対策、土壌診断に基づく適正施肥や土壌改良材投入による土づくり、てん菜、小豆、馬鈴薯や地力増進作物の作付奨励による輪作体系の確立を図り、収量増加や品質向上の取り組みが必要である。

2 作物ごとの取組方針等

町内約2,500haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

米生産の目安に沿った作付面積の維持確保を図り、需要に応じた生産による安定取引を推進するとともに、品質や生産性の向上に努め、安定的な所得確保を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米の需要動向に応じた作付面積を確保し、産地交付金を活用した多収性品種の導入推進により品質や生産性の向上を図るとともに、団地化の推進を図りながら、コスト削減による所得確保を図る

イ 米粉用米

米粉用米の需要動向を踏まえ作付を検討する。

ウ 新市場開拓用米

新市場開拓用米の需要動向を踏まえ作付を検討する。

エ WCS用稲

WCS用稲の需要動向に応じた作付面積を確保する。

オ 加工用米

加工用米の需要動向を踏まえ作付面積を確保する。

カ 備蓄米

備蓄用米の需要動向に応じた作付面積を確保する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆・飼料作物については、湿害を回避するための排水対策の実施、土づくりのための土壌改良材資材の投入、野菜や地力増進作物の導入による輪作体系の確立により収量・品質の安定的な生産を確保する。

(4) そば、なたね

そば・なたねについては、湿害を回避するための排水対策の実施、土づくりのための土壌改良材資材の投入、適正施肥による肥料コスト低減など収量・品質の安定的な生産を確保する。

(5) 高収益作物（園芸作物）

野菜、花卉、果樹といった高収益作物全般の生産性の向上を図る。

特にキャベツ「越冬キャベツ」として商標登録され、地域特産品として付加価値が高く、ブランド力を活かした作物の安定的な生産を確保する。

また、南瓜は日本一の作付面積を背景に地域特産品として位置づけており、栽培技術も確立されていることから、作付面積の維持により安定的な生産と所得の確保を図る。

(6) てん菜・小豆・菜豆・えんどう・馬鈴薯

地域の輪作体系確立のため作付面積の拡大を図り、かつ、湿害を回避するための排水対策の実施、適正施肥による肥料コスト低減、直播栽培の実施など収量・品質の安定的な生産を確保する。

(7) 耕畜連携

より良質な飼料作物等の生産のため産地交付金を活用し、飼料用米生産ほ場の稲わら利用、飼料生産水田への放牧、飼料生産水田への堆肥散布を行うことで耕畜連携を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	871.4	842.5	842.5
飼料用米	8.1	9	9
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲	0.6	0.6	0.6
加工用米		6	6
備蓄米			
麦	224.6	230	230
大豆	361.5	370	370
飼料作物	175.4	183	183
そば	229.0	240	240
なたね	3.9	4	4
てん菜	24.8	30	30
その他地域振興作物			
野菜	508	508	508
花卉	2	2	2
雑穀	3	3	3
地力増進	60	60	60
小豆	10	10	10
馬鈴薯	15	15	15
菜豆	3	3	3
えんどう	9.5	9.5	9.5
その他	0.4	0.4	0.4

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）		目標値	
				（2019年度）	（2022年度）	（2019年度）	（2022年度）
1	野菜, 花卉, 果樹	高収益作物助成	作付面積	野菜, 花卉, 果樹 : 504.3ha	野菜, 花卉, 果樹 : 530.0ha		
2	小麦, 大豆	生産性向上加算	作付面積 <small>作付面積に対する取組実施率</small> 平均単収（小麦） 平均単収（大豆）	586.1ha — 291kg 228kg	620.0ha 90.0% 333kg 246kg		

整理番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
3	てん菜, 小豆, 菜豆, えんどう, 馬鈴薯 (生食用・加工用)	輪作形成作物加算	作付面積 平均単収 (小麦・大豆)	(2019年度) てん菜 24.8ha 小豆 1.7ha 菜豆 0.0ha えんどう 2.1ha 馬鈴薯 0.3ha 小麦 291kg 大豆 228kg	(2020年度) てん菜 30.0ha 小豆 10.0ha 菜豆 3.0ha えんどう 9.5ha 馬鈴薯 15.0ha 小麦 380kg 大豆 280kg
4	地力増進作物 (休閒緑肥)	輪作形成作物加算	作付面積	(2019年度) 15.2ha	(2020年度) 60.0ha
5	小麦, 大豆(黒大豆・種子大豆含む), 野菜, 花卉, 果樹, 雑穀, てん菜, 小豆, 菜豆, えんどう, 馬鈴薯(生食用・加工用)	土壌改良対策助成	作付面積 <small>作付面積に対する取組実施率</small> 平均単収(南瓜)	(2019年度) 1,085.6ha 96.0% 1,100kg	(2020年度) 1,120.0ha 100.0% 1100kg
6	飼料用米	わら利用助成 (耕畜連携)	飼料用米作付面積 取組面積	(2019年度) 8.1ha 6.1ha	(2020年度) 9.0ha 7.0ha
7	飼料作物	水田放牧助成 (耕畜連携)	作付面積 取組面積	(2019年度) 176.2ha 2.8ha	(2020年度) 183.0ha 4.0ha
8	飼料作物	資源循環助成 (耕畜連携)	作付面積 取組面積	(2019年度) 176.2ha 14.4ha	(2020年度) 183.0ha 16.5ha
9	そば, なたね	収量品質安定化助成	作付面積 平均単収	(2019年度) そば: 229.0ha なたね: 3.9ha そば: 77kg なたね: 230kg	(2020年度) そば: 240.0ha なたね: 4.0ha そば: 85kg なたね: 285kg
10	飼料用米	複数年契約加算	取組面積・数量 作付面積・数量	(2019年度) — 8.1ha・43.8t	(2022年度) 9.0ha・63t 11.0ha・77.0t

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり